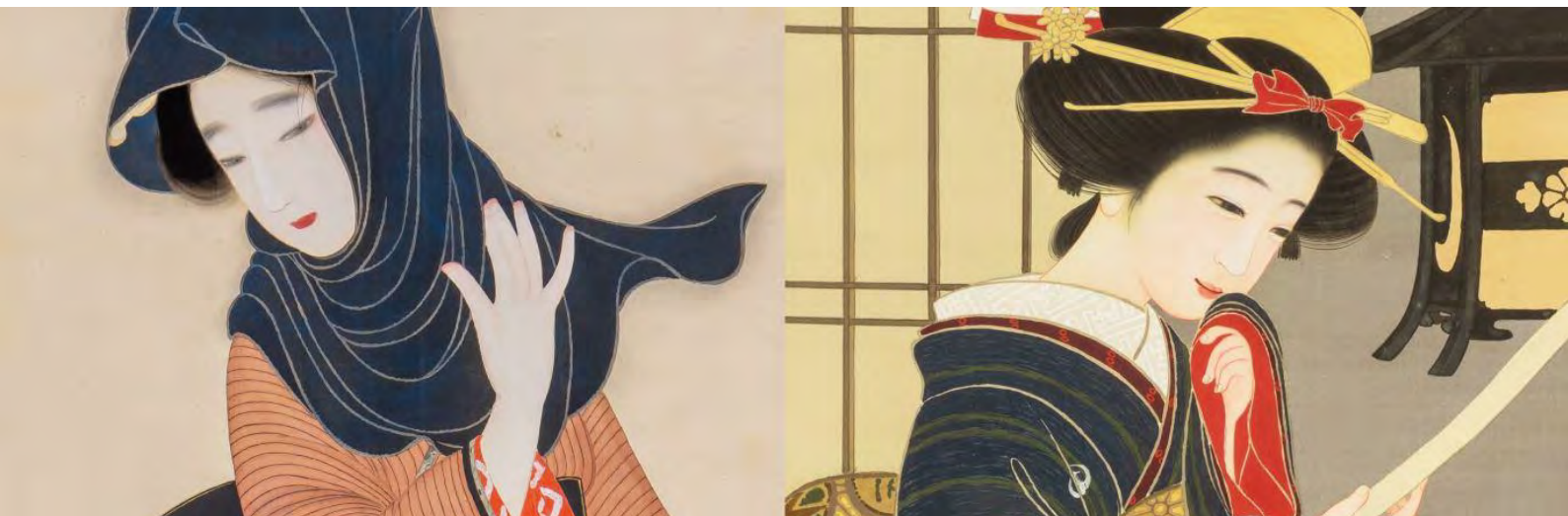


報道関係者各位

2024.2
福田美術館
嵯峨嵐山文華館



君があまりにも綺麗すぎて ―福田コレクションの美人画― 初公開作品も多数！近世・近代の約190人の美人たちを楽しむ二館共催展

2024年初夏、福田美術館は、近接する嵯峨嵐山文華館との共催で、珠玉の美人画コレクションを一挙公開します。日本では江戸時代に「美人画」というジャンルが生まれました。洗練された衣装や優れた着こなしを絵画として愛でる文化が広まり、浮世絵師たちが描いた作品を多くの人々が求めました。近代に入ると、展覧会の場合でも美人画が重視されるようになり、日本画家たちが理想の美人画を追求し、作品は美しく、麗しく妍（けん）を競う時代が訪れます。

画家たちの琴線に触れた実在のモデルを描いたものから、非実在の物語の登場人物に想いを馳せて表現したもの、さらには、記憶の中の美人を理想的な形で再現したものなど、美人画には多種多様な着想や表現をまとめて私たちを惹きつけてやまない不思議な魅力があります。

その尽きせぬ魅力の源こそ、「君があまりにも綺麗すぎて」という画家たちの想いにほかなりません。本展では、これをキーワードとして、**福田コレクションの中から選りすぐった近世から近代にかけての約190人の美人たちを一堂に集め、その魅力に迫ります。福田美術館では2021年以来約3年ぶりとなる美人画展です。**容貌だけでなく、服飾品や背景に至るまで、画家たちがすべてにこだわって描いた美の世界をお楽しみください。

会期：2024年4月19日（金）～ 7月1日（月）

前期：4月19日（金）～ 5月27日（月）／後期：5月29日（水）～7月1日（月）

- 【主催】福田美術館、嵯峨嵐山文華館
【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
【会場】第1会場：嵯峨嵐山文華館 第2会場：福田美術館

第1会場：嵯峨嵐山文華館

近世から始まる美人画のルーツを辿る—浮世絵美人の変遷

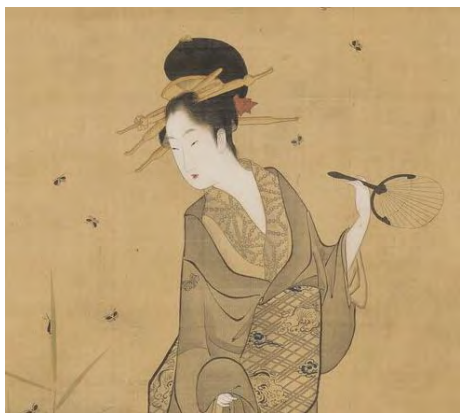
日本における美人画のはじまりは、江戸時代の浮世絵で見られる遊女などを描いた立美人図と呼ばれる作品あたりからとされています。第1会場の嵯峨嵐山文華館1階展示室では、美人画のルーツとなる浮世絵を紹介します。歌川広重や葛飾北斎など、江戸で活躍した著名な浮世絵師によって描かれたものから、近世に京都や大阪で活躍した画家によるものまで様々な作品を展示します。作品に描かれた女性の髪型や衣服に目をこらすと、当時流行した風俗を知ることができます。

さらに、2階展示室（畳ギャラリー）ではさらに浮世絵の流れを汲む鍋木清方や北野恒富、伊東深水らの近代美人画の名手たちによる作品を通して、時代とともに変化していった浮世絵美人の系譜を辿ります。また、雪女や幽霊のような実在しない女性や、『源氏物語』など物語の中に登場する美人たちの美しさに着目した作品など、個性豊かな美人画も集めました。

【作品点数】文華館：通期33／前期10／後期10：合計53点
※うち初公開の福田コレクション：12点



小田富弥《秋宵》（部分）
20世紀 通期展示



鳥文斎栄之《蛭狩美人図》（部分）18世紀 後期展示



葛飾北斎《墨堤三美人図》（部分）19世紀 後期展示



宮川長春《括り枕と美人図》（部分）18世紀 通期展示



上村松園《静御前》（部分）1910年頃 前期展示

第2会場：福田美術館

時代を彩った次世代の美人画―「東の清方、西の松園」の競演

第2会場の福田美術館ギャラリー1では、「東の清方、西の松園」と称され、お互いを認めあっていた近代を代表する美人画家、上村松園・鎭木清方の共演をメインに、近代美人画の名品をご紹介します。なかでも、福田美術館が誇る名品で、第1回文展に出品され3等を受賞した上村松園の《長夜》と、同展に同じく出品された女流画家・池田蕉園による《もの詣で》が、約120年の時を経て共に展示される場所は見逃せません。

また、福田美術館では今回合計31点もの当館初公開作品をお披露目します。



上村松園《長夜》（部分）1907年 前期展示

【作品点数】福美：通期44／前期14／後期16：合計74点
うち初公開の福田コレクション：31点

ギャラリー2では、大正から昭和期に活躍した画家を中心に紹介します。伊藤小坡や伊東深水、梶原緋佐子ら、それぞれに異なる発想と手法で制作に励んだ画家たちに加えて、甲斐荘楠音、岡本神草らによる妖艶な美人画なども展示します。最後のパノラマギャラリーでは、合掌描きという技法で多くの作品を残した中村貞以の名品をご紹介します。

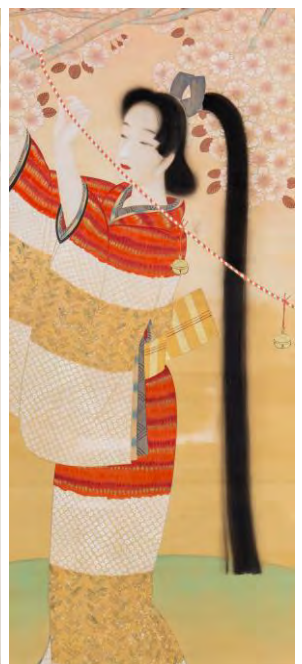
観るほどに「君があまりにも綺麗すぎて」と呟きたくならない空間で、あなたを最も虜にするのは、果たして誰になるのでしょうか。



池田蕉園《もの詣で》（部分）1907年 前期展示



中村貞以《蛇皮線》（部分）1933年 通期展示



大林千萬樹《四季美人図》（部分）
20世紀 通期展示

展覧会概要

■ 企画展名	「君があまりにも綺麗すぎてー福田コレクションの美人画ー」
■ 会 期	2024年4月19日（金）～7月1日（月） ＜前期＞4月19日（金）～5月27日（月） ＜後期＞5月29日（水）～7月1日（月）
■ 開館時間	10:00～17:00（最終入館 16:30）
■ 休 館	5月28日（火）展示替え、6月18日（火）設備点検
■ 主 催	嵯峨嵐山文華館、福田美術館
■ 後 援	京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
■ アクセス	○第1会場／嵯峨嵐山文華館 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分 ○第2会場／福田美術館 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分
■ 料 金	

	一般	高校生	小・中学生	その他
福田美術館	1,500 (1,400) 円	900 (800) 円	500 (400) 円	* 障がい者と介添人1名まで各900 (800) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
嵯峨嵐山文華館	1,000 (900) 円	600(500)円	400(350)円	* 障がい者と介添人1名まで各600(500)円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
二館共通券	2,300円	1,300円	750円	* 障がい者と介添人1名まで各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館／嵯峨嵐山文華館広報事務局（共同ピーアール内）
担当：田中、樋口
TEL：03-6264-2045
Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

TEL：075-863-0606（代表） Email： info@fukuda-art-museum.jp

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館展示）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kimikire2024/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記 ※全て福田美術館蔵



①小田富弥《秋宵》20世紀 通期展示



②鳥文斎栄之《蛩狩美人図》18世紀 後期展示



③宮川長春《括り枕と美人図》18世紀 通期展示



④上村松園《静御前》1910年頃 前期展示



⑤葛飾北斎《墨堤三美人図》19世紀 後期展示

プレス用画像（福田美術館展示）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kimikire2024/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記 ※全て福田美術館蔵



①大林千萬樹《四季美人図_1》
20世紀 通期展示



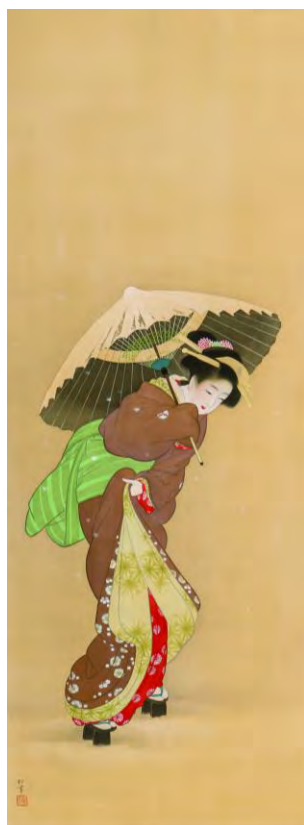
②大林千萬樹《四季美人図_2》
20世紀 通期展示



④大林千萬樹《四季美人図_3》
20世紀 通期展示



③大林千萬樹《四季美人図_4》
20世紀 通期展示



⑤上村松園《初雪》1939年 通期展示



⑥上村松園《美人観月》
1913年頃 通期展示



⑦上村松園《長夜》）1907年 前期展示

プレス用画像（福田美術館展示）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kimikire2024/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記 ※全て福田美術館蔵



⑧上村松園《静御前》1910年頃 後期展示



⑨甲斐庄楠音《娘道成寺》20世紀 通期展示



⑩中村貞以《蛇皮線》1933年 通期展示



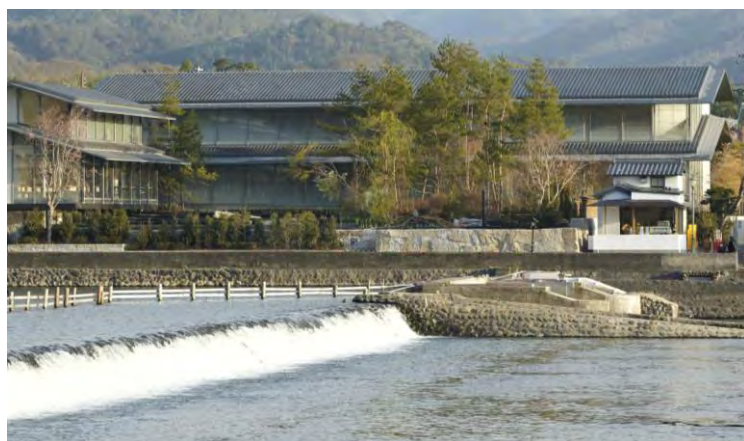
⑪池田蕉園《もの詣で》1907年 前期展示

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

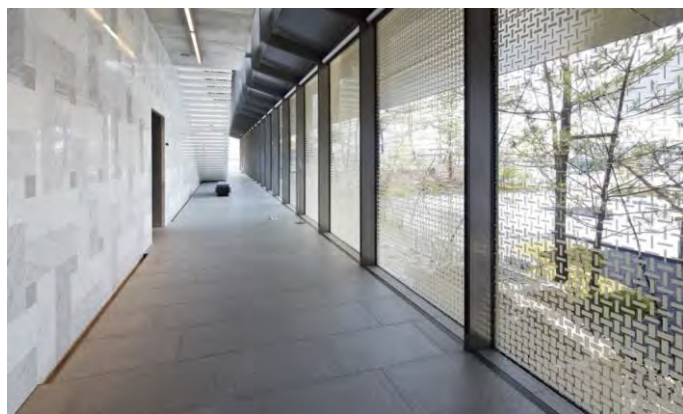
京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

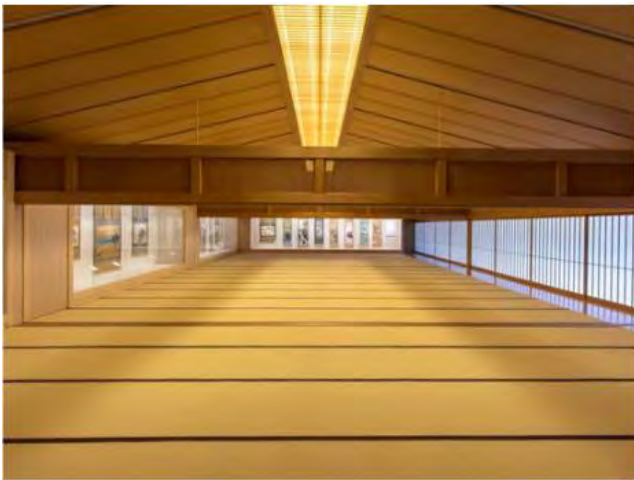
福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。



嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

